

【山崎覚次郎氏年表】

| 年 | 西暦 | 歳(数え) | 内容 | |
|----------------|------|-------|---|--------------------------------|
| 慶応4年 (明治元年) | 1868 | | 同年6月15日山崎徳次郎(第7代万右衛門)長男として生まれる。 | |
| 明治11年 | 1878 | 11歳 | 冀北学舎に学ぶ。冀北三羽鳥と呼ばれ、抜きん出た存在。明治天皇御巡幸、自宅にて拝謁。 | |
| 明治15年 | 1882 | 15歳 | 東京大学予備門入学のため上京。丘浅次郎と共に坪内逍遙の下に寄宿。同年9月予備門合格。 | |
| 明治18年 | 1885 | 18歳 | 東京帝国大学法学部政治学科入学。 | |
| 明治22年 | 1888 | 21歳 | 東京帝国大学法学部政治学科卒業、大学院に進学。経済学を専攻。 | 東海道鉄道開通。掛川駅開業。 |
| 明治24年 | 1891 | 24歳 | 丘浅次郎と共にドイツに私費留学。 | |
| 明治28年 | 1895 | 28歳 | ハレ、ベルリン、ライプツィヒの3大学に学び、11月帰国。帝国大学工科大学講師。 | 青田トンネル開通。山崎千三郎7月4日病により逝去(42歳)。 |
| 明治30年 | 1897 | 30歳 | 東京高等商業学校(旧東京商科大学、現在の一橋大学)教授。 | |
| 明治35年 | 1902 | 35歳 | 東京帝国大学法科助教授。 | |
| 明治38年 | 1905 | 38歳 | 法学博士学位授与。 | |
| 明治39年 | 1906 | 39歳 | 東京帝国大学法科教授。 | |
| 大正2年 | 1913 | 46歳 | 帝国学士院会員となる。 | |
| 大正8年 | 1919 | 52歳 | 東京帝国大学経済学部新設。経済学部教授として、貨幣論、銀行論を担当。 | |
| 大正9年 | 1920 | 53歳 | 経済学部長に就任(大正12年まで)。 | |
| 大正15年 | 1926 | 59歳 | 東宮職御用係(のちに宮内省御用係)として、昭和5年(1930)まで皇室の金融問題の顧問役を務めた。 | |
| 昭和4年 | 1929 | 62歳 | 定年退職、東京帝国大学名誉教授。 | |
| 昭和6年 | 1931 | 64歳 | 中央大学経済学部長兼商学部長勤務(～昭和12年(1937)) | |
| | | | 日本銀行政策委員、学術会議議員 | |
| 昭和14年 | 1939 | 72歳 | 日本銀行顧問就任 | |
| 昭和18年 | 1943 | 76歳 | 金融学会初代理事会長着任 | 昭和18年静岡銀行設立 |
| 昭和19年 | 1944 | 77歳 | 千葉県長生郡太東村字中原の別荘に疎開 | |
| 昭和20年 | 1945 | 78歳 | 6月28日肺炎により逝去 | |

【人物評】

神戸正雄東大名誉教授(昭和21年11月21日 帝国学士院総会・追悼演説)

「山崎君は日本国中の全経済学校、なかでも特に官立大学系の最長老として、…全学徒の崇敬の的となっておられました。山崎君がその晩年に崩壊に瀕した東大経済学部の再建を成就し…経済原論即ち経済の基礎理論を専門とし、山崎君は特に貨幣論において独壇場を持って居られ、経済政策においても、金融論、銀行論において他人の追隨を許さぬ高い見識を持って居られた。…銀行券の発行方法においては山崎君の説の一部が採用された。」

【参考文献】

- ①尾崎徳郎『山崎覚次郎小伝』(平成6年5月)
- ②幡鎌正周、幡鎌さち江『人類は下り坂 丘浅次郎と「ダーウィン」邦訳の謎』(静岡新聞社)2013年3月1日

【主著】

『貨幣銀行問題一般』(明治45年初版)
『銀行論』(大正5年初版)
『経済原論』(大正6年初版)
『若干の貨幣問題』(昭和2年初版)
『貨幣概論』(昭和4年初版)
『貨幣瑣話』(昭和11年初版)
シュルツェ=ゲーファニッツ『大工業論』翻訳(明治36年初版)